

日本の新型コロナ感染第2波について

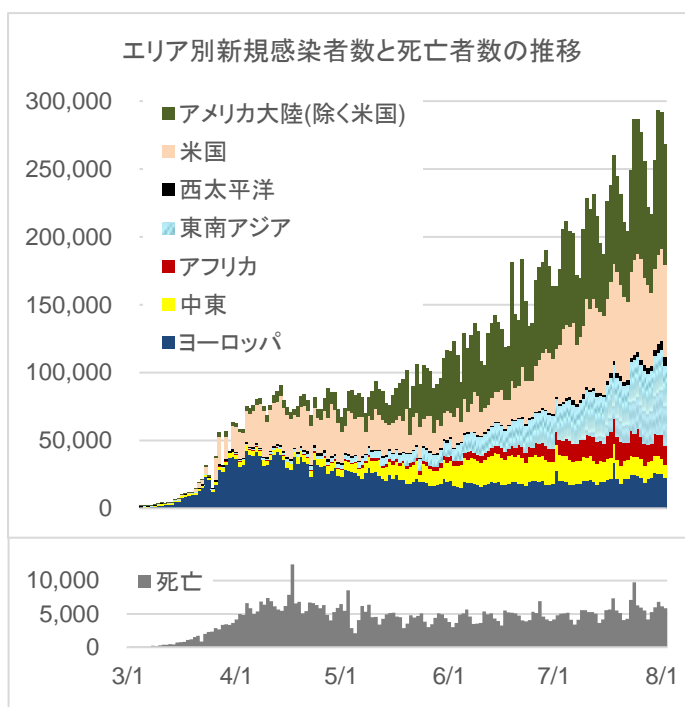
5月25日の緊急事態宣言解除から日が経たぬうちに、日本の新型コロナ感染は第2波到来とも言える急拡大を見せています。メディアでは連日、感染状況を嫌というほど報道していますが、今回のCBCA NEWSでは極力客観的な視点から、足下の日本の感染状況を見つめます。

世界の感染状況と日本

まず、世界の感染状況を見てみましょう。3月から4月に掛けて新型コロナの猛威に襲われたヨーロッパでは、経済活動の制限が奏功し、5月以降は新規感染者の増加を抑え込んでいます。しかし、他のエリアの多くは、不十分な感染防止体制や経済優先の政策などのため、今も感染の拡大が続いています。（なお、日本は西太平洋エリアに属します。）

ただし、感染者数の増加にも関わらず、死亡者数は横ばいに留まっています。感染者の早期発見やコロナ医療のノウハウ向上によるところが大きいと考えられますが、ウイルスの弱毒化を唱える専門家も散見されます。

次に7月の国別新規感染者数を見てみましょう。感染者数が多い国では1日あたり1,000人を超え、酷いところでは数千規模に及びます。さて、日本はどうでしょうか。月間の平均では500人程度と、感染者数が比較的少ない国に位置します。しかし、7月下旬には1,000人を突破し、8月に入っても連日1千数百人規模の感染者を数えます。そして何より、その感染拡大の速度が懸念されます。6月の感染者数と比較すると、多くの国は横ばいから2倍程度、多いところでも3~4倍の数への増加となっています。ところが日本は約9倍と、急拡大を見せています。つまり日本は、もはや感染者数が少ない国とは言えず、足下の感染拡大のペースが著しい国のひとつと言えるでしょう。



(出所)WHO



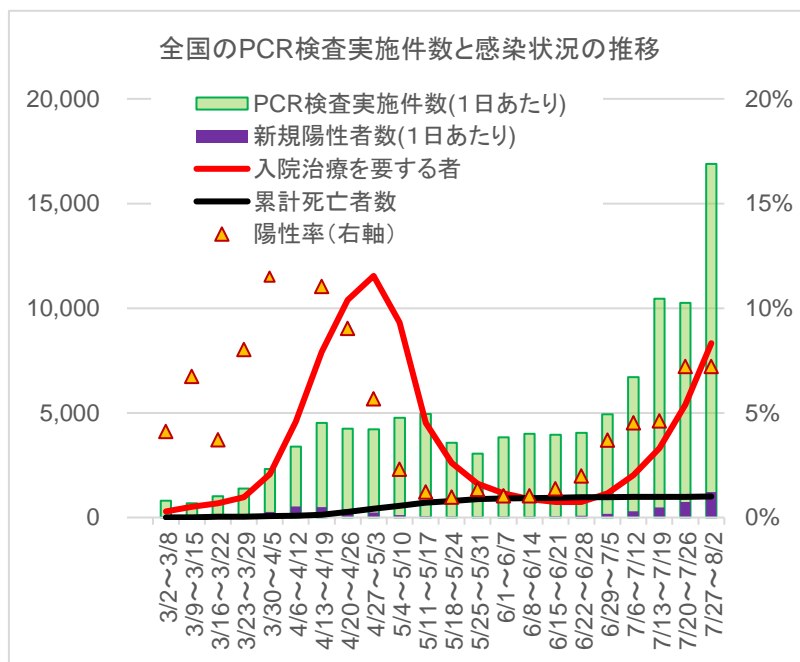
(出所)WHO

日本の感染状況と東京

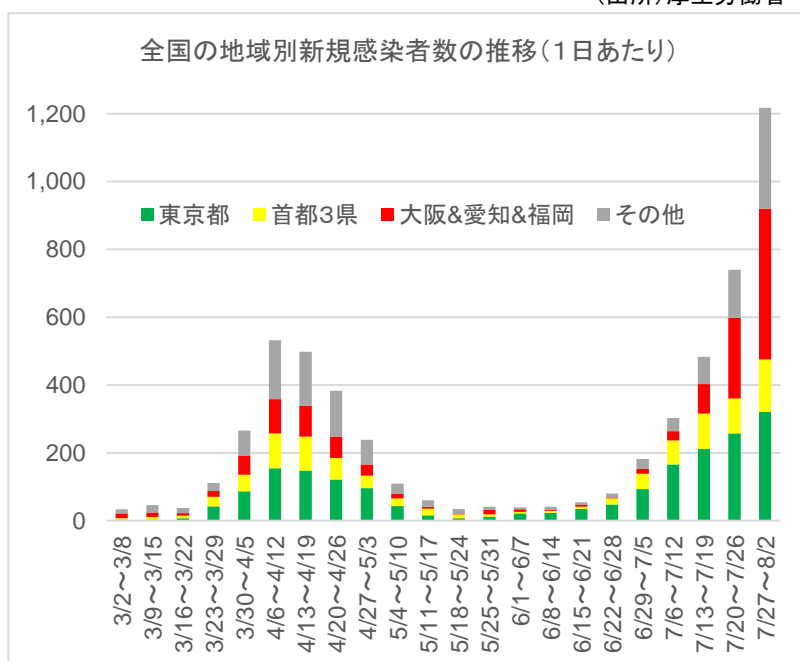
日本全国の感染状況の推移を見て、3～4月の第1波と7月の第2波を比べてみましょう。新規感染者数は現在の方が第1波を上回っていますが、入院患者数は以前の水準には達しておらず、重篤や死亡に至る方も少人数に留まっています。PCR検査はかつての3倍実施されており、新規感染者の早期洗い出しが推進されています。こうしたことから、政府は医療体制に余裕があると判断し、経済優先の舵取りを続けています。しかしながら、感染拡大ペースが著しいため、医療体制の余裕がどこまで続くかは甚だ不透明です。陽性率が上昇していることから、PCR検査が感染拡大に追いついていないのではとも危惧されています。

最後に、地域別の感染状況を見てみましょう。7月当初は、東京が突出して感染拡大し、次に隣接する3県へ広がる展開でした。しかし、7月下旬では、大阪、愛知、福岡などの大都市圏で軒並み感染者数が急増しています。もはや「東京問題」と言える状態ではありません。

さて、日本の今後ですが、鍵となるのは現在の感染規模で留まるかどうかには尽きるでしょう。沖縄など一部を除いて、多くの自治体の医療体制は足下の感染規模ならば、まだ大きな支障はないと思われます。しかしながら、7月のような勢いで感染拡大が続くようなら、日本はあっという間にコロナ感染が酷い国に陥落してしまうでしょう。8月の状況は注視しなくてはなりません。



(出所)厚生労働省



(出所)厚生労働省、東京都他各府県データ

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先